

目次

□巻頭言 昭和60年に期待する……………加藤 三重次/1

□座談会
海外工事と建設機械……………/3

海外建設活動と国際協力の現状……………黒田 正輝/16
森 功

科学万博一つくば'85会場建設の概要
……………(財)国際科学技術博覧会協会計画・建設部/20

グラビヤ——科学万博一つくば'85会場建設

□随想 新幹線今昔……………原島 龍一/26

昭和59年度建設機械展示会(大阪)見聞記……………長 健次/28

昭和59年度建設機械と施工法シンポジウム見聞記
……………長 健次/32

□部会研究報告
新工法調査報告……………調査部会新工法調査委員会/35

□'84建設機械の現状

6. コンクリート機械

6.1 コンクリートプラント(ミキサ含む)
……………高田 善行/41

6.2 トラックミキサ……………池田 元/43

6.3 コンクリートポンプ、ポンプ車……………木村 隆/45

7. 舗装機械

7.1 アスファルト舗装機械……………高野 漢/47

7.2 コンクリート舗装機械……………高野 漢/52

8. 道路維持機械および除雪機械……………川端 徹哉/53
吉岡 敏郎

□新機種ニュース……………調査部会/60

□文献調査
文献目録紹介……………文献調査委員会/65

建設機械化研究所創立20周年
記念式典および祝賀パーティの開催……………/70

□統計
建設投資推計ほか……………調査部会/73

理事会の開催……………/74

行事一覧……………/74

編集後記……………渡辺和・横山・渡辺啓/78

◀表紙写真説明▶

TCM R 350 ロータリ除雪車

東洋運搬機株式会社

本機は、昭和52年に開発され、空港、高速道路などで活躍しているR400の姉妹機として56年に開発されたもので、次のような特長を有している。

- ① 360PSの自産ディーゼルエンジンを搭載し、2,500t/hr以上の除雪能力を有する。
- ② ツーステージ型であらゆる雪質に対応でき、最大除雪幅2.6m、最大除雪高さ1.75mの能力を有している。
- ③ HST駆動、前進8段パワーシフトトランスミッションによりすべての道路条件にマッチした作業が可能である。
- ④ 運転室は前面熱線入りガラス、8,000kcal/hrのヒータ、デラックスなフロアマットとサスペンションシートにより快適な居住空間としている。
- ⑤ オプションとして除雪量を一定にするマイクロコンピュータによる自動走行制御装置を用意している。この装置を搭載することにより除雪量に応じ走行速度が自動的に変化するのでオペレータは投雪作業に集中できる。

◀本機の主な仕様▶

最大除雪量……………	2,500t/hr
最大除雪幅……………	2.6m
最大投雪距離……………	40m
走行速度……………	前後進8段、最高40km/hr
エンジン出力……………	360PS/2,000rpm
運転整備重量……………	18,470kg
除雪装置……………	
……………	

……………ツーステージ型リボンスクレーパー